

なごや「聖歌」だより 11月号'08



コピー：伝統を伝える



右のイコンはレウーシンスキー修道院のペテルブルグ分院から名古屋教会に贈られた生神女イコンです。左上の①が革命前にペテルブルグ分院にあったコピーです。贈呈の話があったときに①の写真をいただき、そっくりのコピーとばかり思っていたら、色もスタイルもずいぶん異なるイコンで、これが正教会の『伝統の多様性』なのかとあらためて考えました。イコン紹介の冊子には、ロシア各地の教会に送られた色も形もさまざまなコピーが紹介されています。たとえば②はヤロスラフの教会に贈られたコピーです。

どのコピーを見ても両手を広げたハリストスを抱く生神女のポーズは同じです、①や②が西洋の影響の強い19世紀ロシア風なのに対し、名古屋のものはそれより古い14-5世紀のロシア・ビザンティンスタイルで、背景はモスグリーン、生神女の服も中間色のやわらかな色調になっています。

『爾いずこに行けども、我、爾とともにあり』という副題の表すメッセージを伝える形は守るけれども、表現はかなり自由です。そこに聖神の働きがあります。それは聖歌を考えるときにも通ずることでしょう。ちなみにこの分院ではズナメニイ聖歌が歌われていました。

聖歌練習

♪名古屋：毎主日の聖体礼儀後に、その日気づいたこと、「聖体礼儀」の練習を中心に行います。

○今月はバザーのために代式後の練習はお休み。バザーが終わったら降誕祭の練習を始めます。

♪半田：10月12日(水)11:45分頃から。

聖体礼儀を中心に練習します。ことばを味わって、ユニゾン(単音)できれいにそろえる練習をしています。3度のハーモニーやバスもつけて楽しんでいます。

11月の指揮当番

2日 エレナ広石	23日 マリア松島
16日 ビーメン松島	30日 エレナ広石



もともとペテルブルグの南東300キロにあったレウーシンスキー女子修道院のイコンスタスとして描かれました。修道院長のタイシャが副題『爾いずこに行けども、我、爾と共にあり』をつけました。レウーシンスキーには優れたイコン工房があり、クロンシュタットの聖イオアンの祝福で同じ作品が複製され同修道院のペテルブルグ分院に安置されました。ここは聖イオアンが最晩年にひんばんに司禱した教会で、このイコンの前で、聖イオアンは革命の勃発を予見し、当時まだ商人だったフイリーツァの聖セラフィムに「あなたは千日このイコンに祈るだろう」と告げました。

革命後、共産党政府によって修道院もイコンスタスもダム湖の湖底に沈められ、分院も没収されました。しかし分院にあったイコンは聖イオアンの予言どおり、すでに修道士となっていた聖セラフィムが保管し、革命期と第二次大戦期の2回、聖セラフィムは千日の祈りを捧げ、人々を危機から救いました。その後も多くの人々が熱心な祈りを捧げ、数奇な運命を経て、今はウクライナのチェルニゴフ近郊の聖ゲオルギイ修道院にあります。

クリスマス特別講演会

正教会の礼拝と聖歌－初代教会からラフマニノフまで

12月11日(木)18:00、国際センター3階、第2研修室

講師：松島純子

3世紀から歌われている「聖にして福たる」を、さまざまな国、さまざまな時代の音楽と比較して聴きながら、初代教会から近代ロシアまで、正教会の「伝統の多様性」と「正しく伝統を守る」部分を検証します。

伝統聖歌研究会

ズナメニイ聖歌に親しむ

しばらくお休みします。

今までの講義内容はインターネットで見られます。

<http://www.orthodox-jp.com/liturg>



聖体礼儀の前半『ことばの礼儀』のクライマックスはポロキメン、使徒経の読み、アレルイヤ、福音の読みです。大半のポロキメンのことばは聖詠の句から選ばれ、繰り返しを歌うことで会衆の注意を喚起します。かつては聖詠の章全体あるいはもっと多くの句が読まれていましたが、次第に縮小されました。ポロキメンは書札を、アレルイヤは福音の読みを導く先ぶれの役割を果たしています。

主日には八つの調からその週の調の主日ポロキメンを歌います。続くアレルイヤも同じ調のメロディで歌われます。(日本ではアレルイヤは一般に1調のみで歌われています。*)祭日のポロキメンは祭りのテーマやその日に読まれる書札や福音の内容と密接に関係していますが、主日の八調ではポロキメンは八週で一巡りするために直接の関係は見られません。1調-32聖詠、2調-117聖詠、3調-46聖詠……とさまざまな聖詠から選ばれています。

さて1調のポロキメン「主よ、我等爾を頼むがごとく…」を含む32聖詠は「新たなる歌」がテーマになっています。

ハリストスが死を以て死を滅ぼした復活を祝う主日、洗礼の水で主とともに死に、主のいのちにあずかった新たなる民の集う地上の教会は天にあげられ、聖人たちとともに天の玉座の前にいます。「巻物を受け取りその封印を開くにふさわしい方。屠られて、ご自分の血で神のためにわたしたちをあがなわれた(黙示録5:9)」方の前で新たなる歌を歌います。

天は主の言にて造られ、天の全軍はその口の気にて造られました(32:6)。彼言えば成り、命ずれば顛れました(32:9)。世界のすべてが主のことばと神^o(息)によって創造されたことが歌われ、至聖三者の神が讚美されます。私たちは人の力(大軍)や武力では救われません。すべてを

*モスクワ調のアレルイヤは調の指定とは関係なく歌われています。

通常のポロキメンと大ポロキメン

ポロキメンには2句のみからなる通常のポロキメンと4句からなる大ポロキメンがあります。大ポロキメンは大祭日の晩課、スポタの晩課に指定されています。日本ではスポタの晩課は2句のみ、通常のポロキメンの形に縮小して行われています。

通常ポロキメンでは聖歌隊は誦経者に続いて同じ句を2回半くりかえします。大ポロキメンでは4回半繰り返します。大斎の先備聖体礼儀の行われる晩課で歌われる「願わくは」も大ポロキメンの形をなしており、受難週ではこのあと福音が読まれます。

通常のポロキメン

一例 主日聖体礼儀 1調一

誦経 ポロキメン、第1の調*
 主よ、我等爾を頼むがごとく爾の憐みを我等に垂れ給え
 聖歌 **主よ、我等爾を頼むがごとく爾の憐みを我等に垂れ給え**
 誦経 (句) 義人よ、主のために喜べ、讚栄するは義者に適う
 聖歌 **主よ、我等爾を頼むがごとく爾の憐みを我等に垂れ給え**
 誦経 主よ、我等爾を頼むがごとく
 聖歌 **爾の憐みを我等に垂れ給え**

*ロシアなどではまず何調かをつけ、メロディをつけて誦経者(ソロ)が歌うことも多い。聖歌は誦経者の歌を聴いて、その通りに繰り返す。

大ポロキメン (祭日晚課、スポタ晩課など)

一例 五旬祭晩課一

誦経 ポロキメン第7の調
 何の神か我が神の如く大なる、爾は奇跡を行ふ神なり。
 聖歌 **何の神か我が神の如く大なる、爾は奇跡を行ふ神なり。**
 誦経 (第一句) 爾は己の能力を諸民の中に顕せり。
 聖歌 **何の神か我が神の如く大なる、爾は奇跡を行ふ神なり。**
 誦経 (第二句) 我謂へり、今始めたり、是れ至上者の右の手の變易なり。
 聖歌 **何の神か我が神の如く大なる、爾は奇跡を行ふ神なり。**
 (第三句) 我主の作為を記憶し、爾が古の奇跡を記憶せん。
 聖歌 **何の神か我が神の如く大なる、爾は奇跡を行ふ神なり。**
 誦経 何の神か我が神の如く大なる、
 聖歌 **爾は奇跡を行ふ神なり。**

主に頼みます。主の目は主を畏れるものの上に注がれ、そのいつくしみを望むものの上にあります。主はかれらのたましいを死から救い、飢えたもの(死)から助け出します。

神、主だけが私たちの頼みです。われらのたましいは主を待ち望みます。主こそはわれらの助け、われらの盾。われらの心は主のために楽しみます。

「主よ、我等爾を頼むがごとく、爾の憐れみを我等に垂れたまえ(主よ、あなたの慈しみが我等の上にあるように、主を待ち望む我等の上に32:22) 今まさに、教会に集まった私たちに、主のことばが告げられようとしています。「義人よ、主のために喜べ、讚栄するは義者に適う(神に従う人よ、主によって喜び歌え。主を賛美することは正しい人にふさわしい。32:1)」

参考資料:『聖詠経』、新共同訳聖書『詩編』、*Christ in the salms* Patrick Henry Readon, *Orthodox Study Bible*, 正基礎講座テキスト『奉神礼』(トマス・ホブコ神父)、『詩編』サンフランシスコ会訳、『正教会の音楽』(J.V. Gardner)

ホームページのご案内

○「なごや聖歌だより」のホームページ

<http://www.orthodox-jp.com/music>

なごや聖歌だよりのホームページの表紙で名古屋教会の聖歌が開けます。「聖歌だより」のバックナンバーもダウンロードできます。

○ 東方正教会の聖歌 <http://www.orthodox-jp.com/maria>

詳しく学びたい方のため正教会聖歌の特徴、聖歌の神学、歴史、など海外の資料も多数翻訳して掲載しています。

○ 正教会奉神礼研究 *Liturgia*

<http://www.orthodox-jp.com/liturgia> 奉神礼や聖歌の実践資料